

埋文ふじのみや

MAIBUN

Vol.14



今号では、世界遺産富士山の構成資産である山宮浅間神社と村山浅間神社について詳しくご紹介。どちらも歴史ある神社です。暑さも和らいでくるこれからの季節、『埋文ふじのみや』を片手に足を運んでみてはいかがでしょうか。

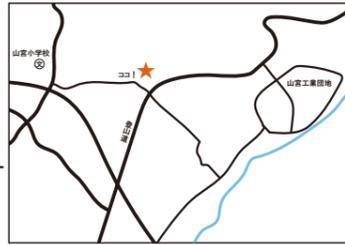
平安・鎌倉・室町
安土桃山・江戸

Yamamiyasengenjinja

山宮浅間神社遺跡

やまみやせんげんじんじやいせき

富士宮市山宮
調査年 / 2012 年
2013 年・2015 年



富士山の遥拝所

山宮浅間神社遺跡は、山宮浅間神社境内地を中心とした遺跡で、新富士火山の溶岩である青沢溶岩流が作り出す舌状台地の末端部、標高約 385m 付近に位置しています。

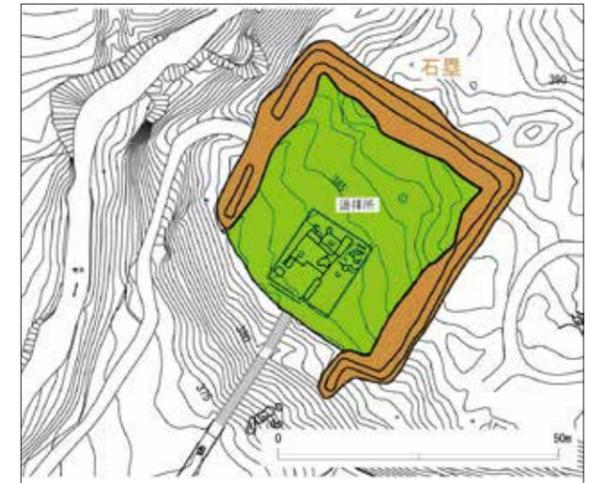
伝承によると浅間大社が元々あった場所とされており、ヤマトタケルが山宮に社殿を創建し、坂上田村麻呂が現在の浅間大社の場所に社殿を下ろしたと伝わっています。神社の境内には本殿に相当する建物が存

在せず、境内地の奥の、高さ約 10m の台地上に溶岩礫を積み上げた石塁と呼ばれる石積みで区画された空間があります。その上からは富士山がよく見え、富士山を仰ぎ見る遥拝所であったと考えられています。遥拝所の中には、整然と並べられた石がいくつもあり、儀式を行った際の席を示していると考えられます。現在は、浅間大社との間で山宮御神幸という儀式が春に行われています。史跡整備に伴う発掘調査が行われ、その成果から、12 世紀中頃に石塁で区画された遥拝所が成立し、祭祀行為を行

なっていたと考えられます。祭祀行為は、富士山を遥拝するもので、お神酒を飲むためや明かりをつけるために使われたと考えられる土師器（素焼き土器）のかけらが2万点以上発掘されています。

こうしたことから、浅間大社は日常的に富士山をお祈りする場所、山宮浅間神社は特別な儀式を執り行なう場所であったと考えられます。

報告書 / 『山宮浅間神社遺跡』2015 年



平面図



石塁越しの富士山



境内



遥拝所からの富士山



出土した遺物

平安・鎌倉・室町
安土桃山・江戸

Murayamasengenjinja

村山浅間神社遺跡

むらやませんげんじんじやいせき

富士宮市村山
調査年 /
2001年・2002年
2004年・2014年
2017年



富士修験・登拝の拠点

富士山西南麓の標高約500mの平坦地で、村山浅間神社やその周辺の村山集落を含んだ範囲が遺跡になっています。山宮浅間神社からは北東約3kmの場所に位置しています。

現在の村山浅間神社には、社殿、大日如来などの仏像を安置する大日堂等の建物や、祈禱を行ったと考えられる護摩壇、水を浴びて身を清めた水垢離場等が存在しています。

平安時代末頃に富士山登頂を数百回果た

した末代上人が、村山に興法寺を開いたとされ、これが神社の起源と考えられています。その後の活動に関して明確な史料はありませんが、室町時代後期には富士山登拝を修行とする富士修験が流行しました。興法寺は浅間大社から富士山への登山道の途中に位置する拠点でした。行者が立ち寄りや、身を清める水垢離の様子などが『絹本着色富士曼荼羅図』に描かれています。

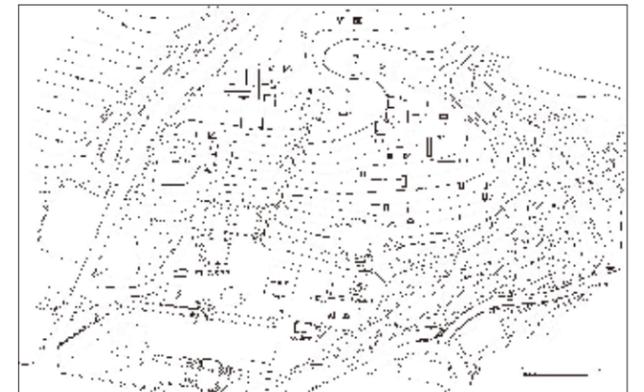
発掘調査は境内地とその周辺で行っています。境内の東寄りに位置する護摩壇の裏手斜面の調査では、竈と炉を持つ堅穴住

居跡と溝状遺構が見つかりました。この住居跡からは、山梨県で作られたと考えられる甲斐型土師器^{はじきつき}坏や甕、また、静岡県西部で作られた灰釉陶器の壺が見つかりました。土師器坏の外面上には、墨で「朝」という字が書かれており、特殊な使い方をしていたと考えられます。遺物の年代から、この住居跡は平安時代中頃の9世紀後半から10世紀前半に使われていたと考えられます。神社裏手の西側斜面では、中世の土師器や15世紀頃の瀬戸・美濃産（愛知県・岐阜県）や常滑産（愛知県）の焼き物や銭が見つかりました。護摩壇と大日堂の間の平坦地では、水垢離場への水路と考えられる溝状遺構が見つかりました。発掘調査の結果からも、中世には大日堂や水垢離場など、行者の信仰や清めの場所として機能していたことが明らかとなりました。

報告書 / 『村山浅間神社遺跡』2002年
『村山浅間神社調査報告書』2005年
『村山浅間神社遺跡II』2016年



神社



調査箇所



村山集落（赤で囲んであるところが神社）



境内



水垢離場



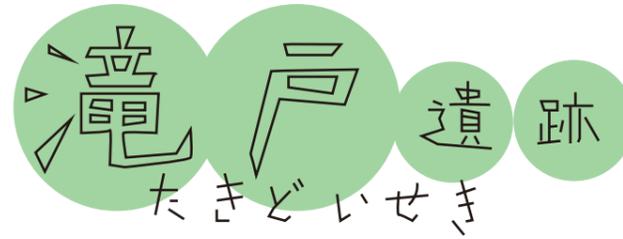
建物跡





最新の発掘情報をお届けする新連載。掘りたてほやほや&現在発掘中の現場を写真と共に紹介していきます。臨場感を味わってくださいね。

現在発掘中なのは…



どんな遺跡？

滝戸遺跡は、富士宮市立第三中学校の校庭を中心に潤井川まで広がる大規模な遺跡で、縄文・弥生・古墳時代にまたがる複合遺跡です。縄文時代の土層からは、多くの土器や石器が出土し、配石遺構も見つかっています。また、縄文時代の上層からは、弥生時代後期の竪穴住居や方形周溝墓も見つかっています。

滝戸遺跡（第Ⅲ次調査）の発掘調査について

現在、富士宮市立第三中学校の擁壁改修工事に伴って、発掘調査を実施しています。調査期間は令和3年度から令和5年度までを予定しており、調査終了後に報告書の刊行を予定しています。今年の発掘は8月2日から本格的にスタートしましたが、すでに1,000点以上の遺物が見つかっています。これらの遺物は今後、郷土資料館で開催中の企画展にて展示する予定なので皆さん楽しみにしてくださいね。

『速報 大鹿窪遺跡&滝戸遺跡 発掘調査展』

8月17日～10月29日

開催中 富士宮市立郷土資料館 (富士宮市民文化会館1F)



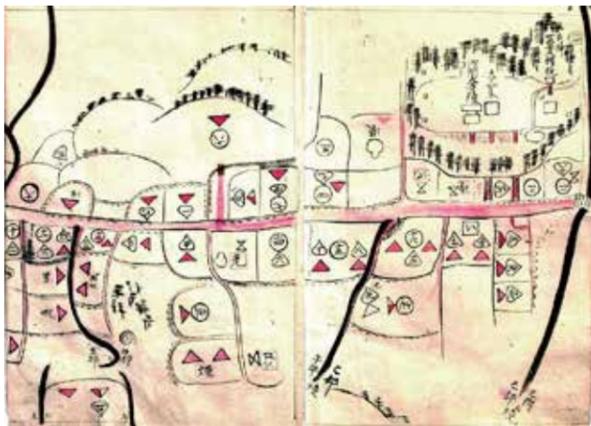
一字一石経



銭



出土土器・陶磁器



江戸時代末の村山集落



『富士曼荼羅図』の村山浅間神社



発掘調査風景



土器 (上) や石器 (右)



出土した遺物

次号の案内

富士宮市内で見つかった遺跡

中世から近世へ

これまで、旧石器時代から中世に至るまでの富士宮市内の遺跡を紹介してきました。このあと、ついに近世の遺跡が登場します。近世とは、江戸時代に相当する時期。幕府が成立し、各地に藩ができ、身分制度が厳しかった時代です。そんな時代の遺跡には、どんなものがあるのでしょうか。次号にこうご期待！

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、様々なイベントの予定が立たないため「富士宮市の見どころ案内」をお休みします。

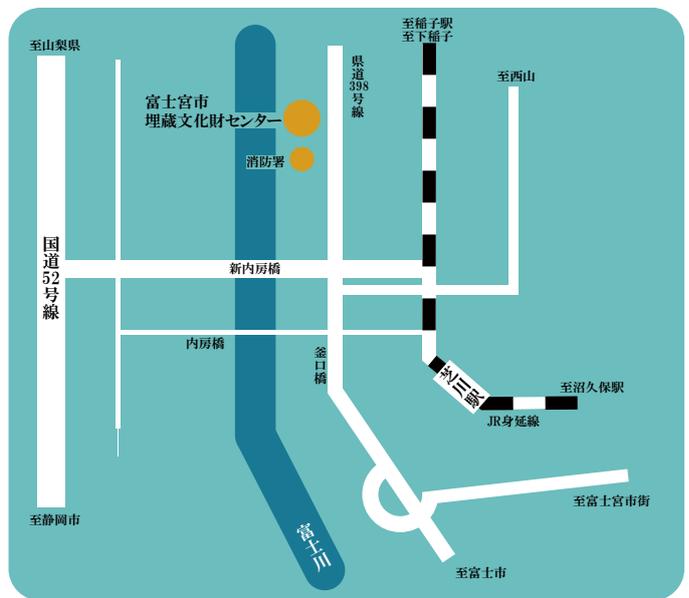
富士宮市埋蔵文化財センター

ご利用案内

- 所在地 〒419-0315
静岡県富士宮市長貫 747-1
- 電話 0544-65-5151
FAX 0544-65-2933
E-mail maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp
- 展示室 平日
開館日 * 祝日及び年末年始（12月28日～1月3日）は休館
- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
* 埋蔵文化財センターの業務時間は
8:30～17:15
- 見学料 無料
駐車場 あり（無料）

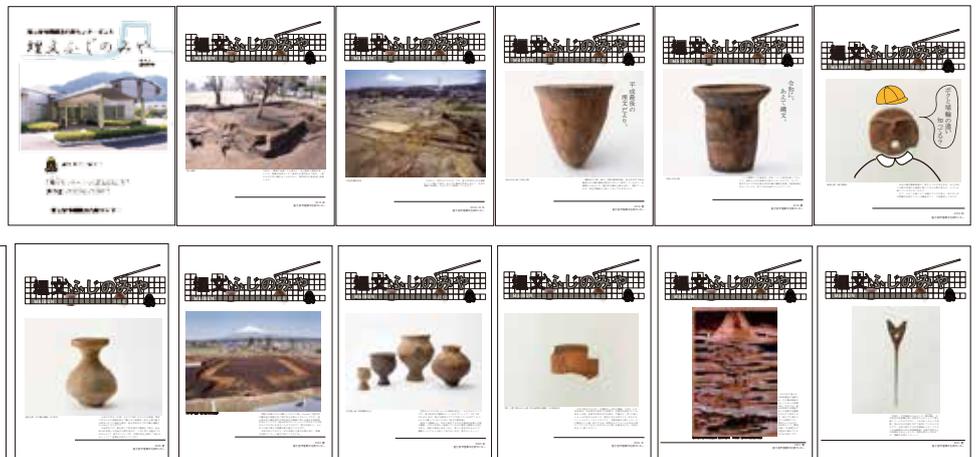


交通案内



【バックナンバーのご紹介】

これまでに発行された『埋文ふじのみや』Vol.1～Vol.13は、富士宮市のホームページでご覧になれます。合わせて、最新号も公開しています。



富士宮市埋蔵文化財センターだより
埋文ふじのみや Vol.14

令和3年9月
編集／発行 富士宮市埋蔵文化財センター